

船体クリーニング&コンパウンドがけの方法

住友3Mマリン用クリーニング用品&コンパウンドがけ用品を用いた基本的な作業方法を紹介いたします。

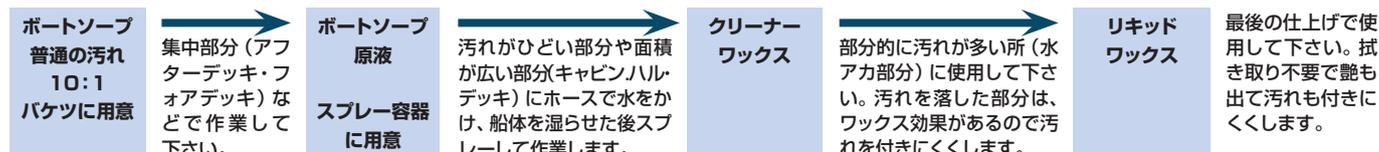
洗って、みがいてワックスを掛けるという基本は車と同じ。異なる点は船体が大いこと、凹凸面が多いこと、表面がツルツルやデコボコなどと種類があること、材質（FRP、布、ゴム、金属、木）が多種類あることなどです。

船体クリーニング（水洗い）の基本テクニック

通常の水洗いから少し汚れてしまった船の本格的クリーニングまで、作業時間を短縮して仕上がりが良い方法で行いたいものです。基本は、クリーニング用品と手作業ツールを最大活用することがポイントになります。

●通常のクリーニング方法

船体には海水（塩の結晶）やゴミなどが多くついているので、高い部分（屋根）から十分水をかけソープ洗いして下さい。



手作業ツール ハンドパット（ホホワイト）を使用。面積が広い部分にはハンドブロック、パッドホルダーを使用すると力を入れなくても効率が上がります。

CHECK POINT

通常のスポンジにくらべ、ハンドパット（3Mのスコッチブライト洗浄用パット）は数倍の洗浄効果がありますが、老化して半分ぐらいの薄さになったら効力がおちるので交換して下さい。ハンドパットにクリーナーワックスを付け水洗いできることも最大の特徴です。

●頑固な汚れのクリーニング方法



CHECK POINT

初めからクリーナー・レストアワックスを使用しないことです。ソープの濃度を上げて洗うと思ったより良く汚れは落ちます。船体を湿らせソープを原液のままスプレーして、ハンドパットを水で濡らしクリーナー・レストアワックスを付けて擦ると効果的です。

●材質の異なる部分のクリーニング（適切な手作業ツールを使用して作業することが重要です）

メタルレストア ステンレス、黄銅、クロームメッキ。 **アルミニウムレストア** アルミニウム専用。 **ビニールクリーナー** ゴム製品。

手作業ツール 基本的に全てハンドパット（ホホワイト）を使用。ネルウェスやハブラシ、スクレイパー等も用意しておくとう便利です。

※ガラスには、スポンジ（CA-02）を使用して下さい。

船体コンパウンドがけの基本テクニック

汚れがひどく黄ばんでしまった。中古艇を購入したが一度ピカピカにしたい。このような状態の船にお勧めしたいのがコンパウンドがけです。少し時間はかかるけれど、作業してしてみれば意外に簡単で仕上がりは最高です。

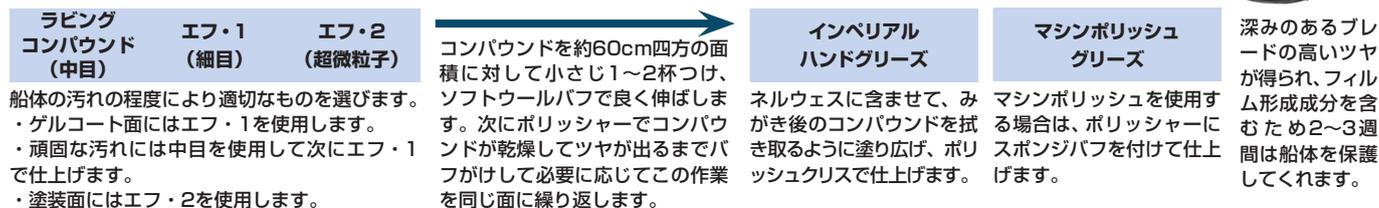
作業用ツール ・電動又はエアーポリッシャー（3Mコンパウンドシステムは、ポリッシャーの回転数が1500～1800RPMが最適なので、電動ポリッシャーは2500RPM以下を選ぶことが重要です。）
・SBSパット、ソフトウールパフ、SBSスポンジパフ、ポリッシュクロス。



電動ポリッシャー

●コンパウンドがけの方法

通常のクリーニングをして海水やゴミなど、汚れを落してから作業を開始します。



CHECK POINT

頑固な汚れやキズの部分は、#800以上の水研ぎサンドペーパーで除去してからペーパー目が消えるまでパフがけして仕上げます。ソフトウールパフは連続して長時間使用しないで、スペアを数枚持ち洗濯して乾燥させ使用すると効果的です。

※各種コンパウンド、つや出し剤はノンシリコン・ノンワックスですので油膜残りなどは一切ありません。よって塗装には影響しません。

リキッドワックス 最後にリキッドワックス、ペーストワックスで仕上げ作業を行って下さい。手作業でワックス作業を行っても、リキッドワックスで約2カ月、
ペーストワックス ペーストワックスで約4カ月の効果は維持します。(期間は季節や仕上げの状態によって多少異なります。)